

文化人類学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時
文化人類学特論Ⅱ	文化人類学各論	2	ボレー・ペンメレン・セバスチャン	後期 火曜日 2講時
文化人類学研究演習Ⅰ	文化人類学の視野と思考	2	越智 郁乃	前期 月曜日 3講時
文化人類学研究演習Ⅱ	文化人類学の視野と思考	2	包 双月	後期 月曜日 3講時
文化人類学研究実習Ⅰ		2	川口 幸大	前期 水曜日 3講時 前期 水曜日 4講時
文化人類学研究実習Ⅱ		2	川口 幸大	後期 水曜日 4講時 後期 水曜日 5講時

科目名：文化人類学特論Ⅱ／ Cultural Anthropology (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 火曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：ボレー・ペンメレン・セバスチャン

コード：LM22203, 科目ナンバリング：LGH-CUA602J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学各論

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology (Special Lecture)

3. 授業の目的と概要：本授業は、東北アジア諸国および関連地域の社会組織に対する人類学的アプローチを議論する。日本、中国、その他の近隣諸国の災害文化を背景にする。扱われる主題は、いわゆる「自然」災害と「人為的」災害の両方の災害に関連するものである。講義においては、社会的連帯、回復力、脆弱性、コミュニティなどの概念が取り上げられる。学生の数に応じて講義の後にグループ討論を実施し、最終的に全体の結論を導きます。

授業は全て対面で行います。

授業名は東北アジア文化人類学です。

Classroomで講義を「受講」して課題を完了させ

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course introduces the anthropological approach to the social organization of countries in Northeast Asia and its neighbours, including Japan, Taiwan, Korea, and China. We use the context of cultures of disasters in Japan, China, and some of its neighbouring countries. The topic will be dealt within both so-called 'natural' and 'human-made' catastrophes. Each lecture will deal with the concept of social solidarity, resilience, vulnerability, community, nature, environment, climate change, and other contemporary concepts. Most lectures will be followed by a group discussion and a general conclusions.

The classes will be onsite.

The name of the GoogleClass is Cultural Anthropology (Special Lecture)

Please receive the materials and complete the assignments in GoogleClassroom.

5. 学習の到達目標：

6. Learning Goals (学修の到達目標)：

7. 授業の内容・方法と進度予定：

- I. 授業のイントロダクション
- II. 現代世界における災害
- III. 人類学の視点から見た災害災害
- IV. リスクと脆弱性について
- V. 減災におけるレジリエンス
- VI. 気候変動、適応、脆弱性
- VII. 災害時の社会的連絡
- VIII. 災害コミュニティの移動と移動
- IX. 災害対応のアクターとアジェンダ
- X. 災害「想像の共同体」
- XI. 犠牲者、追悼、メモリアル宗教と災害
- XII. 宗教と災害
- XIII. 東日本大震災と仏教
- XIV. 災害ツーリズム、記憶、語り部
- XV. 将来の災害文化人類学

8. 成績評価方法：

レポートとクイズ

9. 教科書および参考書：

教科書がなし。読書リスト 研究室で適宜指示する。[No textbook. Reading lists and/or handouts]

10. 授業時間外学習：読書（論文とチャプター）を通読した上でメモを書き、講義ノートを作成する。次の講義に参加する前に、個人で、または他の学生と一緒に協力して復習する。Lectures notes and written memos based on the reading (articles and chapters). Review with other students after each lecture.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

授業は全て対面で行います。The classes will be onsite.

科目名：文化人類学研究演習 I / Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

曜日・講時：前期 月曜日 3 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：越智 郁乃

コード：LM11305, 科目ナンバリング：LGH-CUA605J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考

2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)I

3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography

5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。

最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1. イントロダクション
2. 研究動向の整理と検討
3. 研究動向の整理と検討
4. 文献講読
5. 研究動向の整理と検討
6. 研究動向の整理と検討
7. 研究動向の整理と検討
8. 文献講読
9. 研究動向の整理と検討
10. 研究動向の整理と検討
11. 研究動向の整理と検討
12. 文献講読
13. 研究動向の整理と検討
14. 研究動向の整理と検討
15. 最終報告

8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]

9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。

10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：

科目名：文化人類学研究演習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ

曜日・講時：後期 月曜日 3講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：包 双月

コード：LM21303, 科目ナンバリング：LGH-CUA606J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：文化人類学の視野と思考
2. Course Title (授業題目)：Cultural Anthropology(Advanced Seminar)Ⅱ
3. 授業の目的と概要：文化人類学についての理論および民族誌的研究を精査することで、主要な概念と関心の動向を検討する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：To examine key concept and interest of cultural anthropology through the research of the theory and ethnography
5. 学習の到達目標：文化人類学の研究動向を体系的に理解し、自身の問題関心を展開させる。最終的には、自分の研究主題についての文献リストと主要文献のレビューを作成する。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：To complete reference and review for your research topic through the investigation into previous studies
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. 研究動向の整理と検討
 3. 研究動向の整理と検討
 4. 文献講読
 5. 研究動向の整理と検討
 6. 研究動向の整理と検討
 7. 研究動向の整理と検討
 8. 文献講読
 9. 研究動向の整理と検討
 10. 研究動向の整理と検討
 11. 研究動向の整理と検討
 12. 文献講読
 13. 研究動向の整理と検討
 14. 研究動向の整理と検討
 15. 最終報告
8. 成績評価方法：

発表[40%]、出席[20%]、最終レポート[40%]
9. 教科書および参考書：

授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：毎回、課題に沿ったレジュメを作成する。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化人類学研究実習 I / Cultural Anthropology(Field Research) I

曜日・講時：前期 水曜日 3 講時. 前期 水曜日 4 講時

Semester : 1 学期 単位数 : 2

担当教員：川口 幸大

コード：LM13310, 科目ナンバリング：LGH-CUA608J, 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：

科目名：文化人類学研究実習Ⅱ／ Cultural Anthropology(Field Research)Ⅱ

曜日・講時：後期 水曜日 4講時. 後期 水曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：川口 幸大

コード：LM23409, 科目ナンバリング：LGH-CUA609J, 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：】

1. 授業題目：
2. Course Title (授業題目)：
3. 授業の目的と概要：
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：
5. 学習の到達目標：
6. Learning Goals(学修の到達目標)：
7. 授業の内容・方法と進捗予定：
8. 成績評価方法：
9. 教科書および参考書：
10. 授業時間外学習：
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：